

もろて 諸手をあげて 長寿を喜べる世の中に

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人財団百葉の会 銀座医院
院長補佐・抗加齢センター長

認知症の発病で老老介護予備群のKさんのケース

患者氏名	K・R様	年齢	89歳	性別	男性	現病歴	糖尿病 高血圧症 アルツハイマー病
------	------	----	-----	----	----	-----	-------------------

かなりご高齢のKさんは、いつも奥さまに付き添われて外来にいらつしやいます。といっても奥さまも80代後半で、決してお若くはありません。それでも一緒にいらつしやるのは、Kさんがアルツハイマー病を発症されていることが大きな理由です。

私は20年ほど前からKさんを診させていただいていますが、血糖値のコントロールはそれほど悪くはなく、血糖値は120mg/dL前後、ヘモグロビンA1cは7%台前半で推移しています。ところがここ数年、ど

こか元気がなかったり、物事があまり理解できなくなったりといった兆候が徐々に見られるようになりました。詳しく検査するとアルツハイマー病を併発しておられたのです。

アルツハイマー病に関しては新薬も開発されていますが、進行を遅らせるくらいで決定的な治療法は見つかっていないのが現状です。このままKさんの病気が進行すれば身の回りのことができなくなり、奥さまによる老老介護、または施設への入居も余儀なくされる

でしょう。

人生100年時代といわれる現代ですが、果たして長生きするところがよいことなのか。Kさんご夫妻の姿を見するにつけ、今後の医療のあり方を考えさせられます。

私が担当している他の患者さんも高齢化が進み、最高齢は96歳です。もちろん私も同じように歳をとっています。諸手をあげて長寿を喜べる世の中にするために、もうひと頑張り、ふた頑張りしなければと思っています。